



1位 4時間12分53秒



2位 5時間14分34秒

折返しのダイヤモンドの登りでは進まず歩きました。ゴールまで6分30秒ペースで2kmを駆け抜けゴール5時間14分で完走!!走りながら感じた事は一人でもやっていたら必ず走りが見ていてくれるということ。皆が助けてくれる。今回は貴重な体験をありがとうございました。【大倉】

春の時点で私の目標は4時間台を目指して練習していましたが、秋に右足の股関節と臀部を肉離れし、目標タイムを6時間台にしました。私は共通ユニフォームを作り、胸に『鮮コーポレーション』背中に各店舗と名前をプリントされたものを着て走りました。

スタート5kmぐらいから早くも両足に違和感を感じていました。丁度よい気候のハワイの街を気持ち良く走っていましたが足は徐々に痛みが強くなり、20kmもいかない内に走るのを断念しました。歩いているとユニフォームを見て「庄原から来たのですか?」と話かけられました。とても嬉しかったです。

ゆっくりしたペースですが、走り続けた人に追い抜かれていきます。私も始めからゆっくりしたペースで走れば完走できたのでは?と悔しい思いもしました。綺麗な景色、暑すぎない気候、沢山のランナーウォーカーと共に歩きながら色々な事を考えます。今までの練習、お店、働いてくれているスタッフ家族の事や、専務と社長は無事に進まれているかな~など思い起こしました。

そして、ゴルトトラックに入り、痛い脚を我慢しながら自分なりのラストスパートを思い走りました。ついに私なりの感動のゴールです。時計を見ると7時間20分くらいでした。走れる体作りを一からやり直し、歩くこと無くフルマラソン完走を目指して再チャレンジして参ります。皆さん、本当にありがとうございました【小林】

■編集後記■2017年の10月のハワイゼミの社長の一言で、鮮コーポレーションスポーツ・マラソン部発足からの『ホノルルマラソン』。一年がかりの大きなプロジェクトを社内報で、追っかけ取材を掲載しました。あの年齢で・あの巨体でetc(失礼な表現ですみません);)素晴らしい社長の姿を、本報でいつも側で拝見していました。最初に掲げた目標に向かって手段・方法を考え取り組むと共に、日々コツコツと真摯に向き合うこと、完走というゴールに向かってホノルルマラソンに挑戦する、それぞれの皆さんの姿からも、学び考えさせられた一年でもありました。出場者の皆さん、お疲れ様でした。そして、ありがとうございました。

最初に社内報を見た時、ホノルルマラソン参加募集の欄があり興味があったので当時、緑井本店と一緒に働いていた大倉さんと応募しました。

月に2回の練習があり、徐々に上手くなっていくのを感じました。夏場の練習は特に過酷で常に気温が30℃越え、その中での練習は一瞬『死』を覚えました。秋になると走りやすい気候になり自主練を沢山やりました。

そして12月5日に関西国際空港から飛行機でホノルルへ出発しました。本番を迎えスタートし、同時に火花が上がって参加者のボルテージも最高潮に達していました。

30km過ぎの時に約3時間。ここからが大変でした。急に足が重くなり、前に行こうと思っても足が上がらず顔も余裕が無くなりました。40kmの時に4時間。この区間はダイヤモンドヘッドの周りを走っていて、山登りをしている感覚でした。

ゴール手前では人が沢山おり、声援をかけていただき泣きそうになりました。ゴールした時の記録は4時間12分53秒でメンバーでトップでした。正直辛かった。足が痛かった。動けない。でも、楽しかったので満足した。色々な感情が入り混じっていました。この体験は人生の中でかけがえのないものになったと思います。【大島】

FINISHER!!



5位 7時間26分25秒

最初は本当に走れない。全く続かないの連続でした。夏を迎える頃、ここで本気で体を動かし、毎月80km~100km走る事を目標に毎朝6時に起きて1時間走る事を目標にやってみました。(中略)現地ハワイでツアーで組み込まれているコースの下見。

一同バスに乗り込み見学がてら走るのを思い描きながら...ちょっとヤバさ加減を知る。海岸沿いをスタスタと走りながら満喫。サンセットを見ながらやっぱりハワイの良さを感じてスタスタ...。本番フルマラソンは街中がお祭り騒ぎで面白い、楽しい、これから始めるきつ〜い道りを感じさせない気分がさせてくれる。下見コースで一番の難関だと感じていたのがハイウェイコース!長い道のりに心が折れそうになり、歩いてしまう事もあったが、それでも前を見て足を進めていく中でゴールに近づく若干の喜びを感じていました。最終の難所に差し掛かる時に沿道から「6時間切れるよ」と声が聞こえてきて、自分の目標時間までに辿り着けるように諦めずに進んで行くことが出来ました。最後まで諦めずに皆の支え、後押し、協力があったからこそ完走できました。メンバーの一員であった事を誇りに思います。【伊達】

3位 5時間41分58秒

私はこれまで走った最長距離の15kmまでは絶対に走ることにしていた。ダイヤモンドヘッドの坂にさしかかる。まだ大丈夫。給水所でも余裕で、飲みか飲まない、どうしようか考えていたくらい。急な坂も、皆が歩く中、とにかく走ってはいた。15km走った時点で私の体力も耐力も限界がきたようでゼンマイが緩むようにして『走る』から『歩く』に自然と変化しました。

25km地点。3時間半くらいたっただろうか、やっと、ハイウェイから外れて閑静な街並みに入っていく。時折思い出したように走ってみるが200~300mで、止まってしまう。今まで、経験したことが無いくらいに足の裏が痛い。足はもろろん、腰も棒のようになって曲がらない。ただ、ひたすら歩く。頭の中は、早く着きたい。早く坐りたい。

私の時計で8時間経ったころ、ようやく視界が開ける。ゴールのカピオラニ公園が見える。あと1~2km?普通だったら10分もあれば着くしなんてことない距離なのだが、これが遠い。着かない。水をもらい、氷をかじりやっとなににか着く。アーチ型のバルーンにゴールと書いてある。あと500m。近づくとその先300mの所に、もう一つバルーンがある。力が抜けるのを感じた。それでも辿りついた。

私の今回の目標は『ゴールに辿りつくこと』目標達成。ホテルに帰ってしばらくすると楽になった。足も体も痛かったが思ったほどでなし。私のように、半分は歩いた人間は、さほど、運動力があつたわけではないから、言われるほど痛みが残らなかつたんだろうということ。人生でも言えるかもしれない。早く走る人間ほど、遠くまで行こうとする人間ほど、体の痛みも、心の痛みも大きいのではないかな。もちろん得るものも大きいはず。翌日、9時にはホテルを出て、帰国。一年がかりのプロジェクト。無事完了。【西田社長】

鮮コーポレーションスポーツ ホノルルマラソンへの道

2018年12月9日現地時間5時にホノルルマラソンがスタートしました。メンバーを揃う所から始まりまさかの団長交代、キャプテンの脚の故障、真夏の猛特訓と様々なドラマを経て、42.195kmを全員が完走したことは感動しかありません。思いの詰まったレポートを抜粋してお伝えしていきます。
【しポーター 西田啓】

《参加メンバー》

- ・西田社長
- ・西田専務 (新鮮市場)
- ・小林部長 (新鮮市場)
- ・伊達店長 (三次店)
- ・大倉さん (ゆめタウン廿日市店)
- ・大島さん (緑井本店)



ついにスタート!テンションはマックスに。つい声が出る。

「行け行け」。3km走って調子良いぞ、これはいける。トイレ以外20kmはノンストップで走ろうとまずは目標設定です。6km地点でユニフォームに書いてある『広島県庄原市』『西田篤生』からだろう後から「広島県須張れ!!」と声を掛けられる女性がおられ嬉しさと、悔しさとでパワー全開となる。

コースは魔のハイウェイに入る。走っても走っても左は山、右は海、前は人、人と景色に変化はなしのまま走り続ける。まだ折り返しはないのか何度思っただろう。歩きたい、疲れた。しかし背中には出身地と名前が書いてあるし恥ずかしいな。折り返しの仲間にも歩いている所を見られたくないしと苦戦中。

そんな中、折り返して前から走って来られた大島さんに声を掛けられ「頑張ってください」の励ましの声が飛んできてパワーをいただきファイท์。それから数分後に大倉さんからも声を掛けていただきパワーが湧き出た。(中略) やっとゴールのバルーンが見えた。あそこまで走れば休めると足を前に出すのがなかなかゴールが近づかない。終わりたい。座りたい。靴を脱ぎたいと思いつつ、やっとゴールになる。今回、60代での参加ですが、この自信で40代の気持ちに変身です。次回に参加する時は30代に変身したいものです。
【西田専務】

応援団現る!!



社長の友人が職を持って日本から応援に来られました



6位 7時間55分31秒